

2012年度センター試験 英語問題総評

駿台予備学校・洛南高等学校講師 竹岡広信



今年の筆記の問題は「ある程度の力がある者」なら170点を取ることは難しくない問題。上位校の平均点は180点越えも珍しくなかったぐらい全体的に素直な出題であった。例年、1問ぐらいいは上位者でも落としてしまう問題があるのだが、それが見当たらない。よって満点も十分にねらえる問題であった。ただし、英文の分量は多く、語彙・文法問題もそれなりに難しく、語彙数も300語ぐらいい増加しているため、中位から下位の者にとっては例年以上に厳しかったかもしれない。

なお、解説中に登場する「正解率」は、今年実際にセンター試験を受験した生徒にお願いして調査したものの、平均点は以下の通り。

	上位 クラス	中位 クラス	下位 クラス	全国 平均点
筆記	184.9	162.2	136.6	124.17
リスニング	34.8	30.8	26.3	24.55

上位と下位の母集団との比較で、正解率に20%以上の開きがあった問題には、正解率の後に(差)と記した。

設問別講評【筆記】

第1問A

[正解率] 問1 71.6% 57.8% 61.2%
問2 91.4% 84.5% 74.1%
問3 94.0% 87.1% 75.0%
問4 91.4% 85.3% 77.6%

[解説] 今年も母音2題、子音2題の計4題の出題である。昨年度は couch, enclose, monarch,

ostrich など奇をてらった主題があったが、今年はおおむね素直な出題。よって、発音問題にしては正解率も高い。唯一問1だけが厳しかったようである。各単語は平易なので発音することはできるのだろうが、発音記号を書く習慣のない者には /ju:/ と /u:/ の違いが難しかったようである。

[対策] 「出会った単語は、発音記号を書き英米人の発音を手本にして発音する」という基本の反復に尽きる。発音記号の指導は欠かせない。

第1問B

[正解率] 問1 73.3% 53.4% 31.9% (差)
問2 87.9% 81.9% 69.0%
問3 84.5% 79.3% 62.9% (差)

[解説] 今年のアクセントの問題も非常にオーソドックスな問題で、真面目に勉強してきた受験生は正解したものと思われる。原則を挙げると、問1 -ee- 問2 -gion, -ate, -ain, -cian 問3 -ity, -ee-, -ics, -graphy。なお、automobile は2つのアクセントがあるが、正解には影響しないので出題されたものと思われる。

[対策] 発音問題は上位層も下位層もそれほどの差はないが、アクセント問題は、2つの集団で差がついている。つまり筆記の合計点との相関関係が高いと言える。これは、下位層の学生の方が「音読」訓練ができていないためであろう。入学後の早い時期からアクセントの原則を徹底指導し、ふだんから法則性を意識して(例えば sincere を発音するときには severe, interfere などいっしょに)覚えるように指導したい。

第2問A

問1 [正解率] 94.0% 78.4% 63.8% (差)

[解説] 基本動詞の運用を見る問題。従来は、answer / reply など「日本語の訳語は同じだが、用法が異なる単語」に重点があったが、この問題は「実用技能英語検定」と同種の出題。是非はともかくとして、新傾向と言える。単語力の差＝英語力の差であることを考えれば上位と下位で30%も差がついたことは頷ける。

問2 [正解率] 81.0% 41.4% 28.4% (差)

[解説] 上位層と下位層ではかなり差が出た問題と言える。「受験問題集」には depend on = rely on = count on などと書いてある場合があり、それを鵜呑みにして①＝④と考えて消去してしまった人が間違っていたようだ。また、英作文の対策をしている人ならば vary / differ depending on ～「～に応じて様々だ」は常識的な表現であろう。

問3 [正解率] 87.1% 81.9% 77.6%

[解説]「時・条件を表す副詞節中では will を入れない」という基礎文法の問題。過去にも the next time ('02), if ('02, '01), when ('05 追, '89) や in case ('93 追, '92 追) などの接続詞が出題されてきたが、by the time が出題されたのは初めてである。

問4 [正解率] 69.8% 56.9% 37.9% (差)

[解説] have ～ on 「(電化製品や、水道など)のスイッチがついた状態である」。turn on を知っている人は多いはずだが、応用されると差が出る。空所の直前の all にも気をとられた人が多かったようである。

問5 [正解率] 63.8% 38.8% 27.6% (差)

[解説] vertical という語は、2008 年本試験第5問の a vertical dotted line 「垂直な点線」、1994 年追試験第6問の the highest vertical cliff on earth 「地球で最も高い垂直の崖」で出題されている。前半に登場する cliff という単語も難しかったためか、全体的に出来は悪い。

問6 [正解率] 68.1% 50.0% 31.9% (差)

[解説] on (the) condition that S V 「S V という条件で」という熟語を尋ねる問題。この問題も語彙力

の差が出た問題。決して難しい熟語ではない。

問7 [正解率] 82.8% 62.1% 63.8%

[解説] not ～ either という基本文法。過去においても、neither / either / none / any などは幾度か出題されている('05 追, '99, '98 追, '94, '91 追)。中位と下位で差がないということは、下位でもこれぐらいの文法なら、中位レベルの者と同程度にやっているとことだ。

問8 [正解率] 83.6% 72.4% 66.4%

[解説] let + O + 原形不定詞は、let me know なども頻出のはず。本年度の第3問Bの中にも let their young children watch TV という表現がある。それでもこの程度の正解率しかないのは stand in the way 「邪魔をする」という意味が分からずに適当に選んだためだろう。なお let の出題は文法問題は '96, '93、並べ替え問題では '08, '03 追に出ている。

問9 [正解率] 85.3% 61.2% 42.2% (差)

[解説] センター試験ではよくあるタイプの文構造を把握させる問題。had a chat with で、with の後にあるべき名詞が欠落していることから the one whom S had a chat with という形からの whom の省略を想像しなければならない。この形を見た瞬間に④を選んだ者が多かったと思われる。なお文構造を考える関係代名詞が絡んだ過去の問題は、'08, '05, '02 追, '98, '97, '95, '93, '92 と頻出事項でもある。

問10 [正解率] 97.4% 91.4% 80.2%

[解説] どのような熟語集を見ても出てくる「頻出熟語」。通例は carry out a survey 「調査を行う」、carry out research 「研究をする」といった形で用いられることが多い。

第2問B

[正解率] 問1 100.0% 94.8% 91.4%

問2 96.6% 84.5% 81.0%

問3 90.5% 64.7% 68.1% (差)

[解説] 今年の問題はリスニングが難しかったためか、筆記の会話は比較的簡単である。それでも問3は上位層と中位層以下で差がついた問題。make it 「何と

第2問B 次の問いの会話の []に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ
選べ。

問3 Anna: Will you be able to come to the party on Sunday?

Stephen: I'm not sure because I have a biology report to hand in on Monday.

Anna: I see. So, I guess you can't make it then.

Stephen: [].

Anna: I can wait till Saturday night.

① Can you wait till Monday? ② Do you need my answer now?

③ How long will the party last? ④ What time do we have to come?

かやる、うまくいく、間に合う」という熟語が難しかったのかもしれない。本文では「行けないみたいだね」という発言に対して空欄があり、それに対する答えが「土曜日の夜まで待てます」というもの。何に対して「待てます」と言っているのかが問題となっている。日曜日のパーティーと言っているから③「パーティーはどれくらい続きますか」④「何時に来なければいけませんか」→「土曜日まで待てます」ではおかしい。選択肢は①「月曜日まで待てる?」→「土曜日まで待てます」は、そこだけ見たらいけそうだが、日曜日のパーティーということが分かれば意味をなさないことが分かる。以上から②を選ぶことになる。この問題の出来は「消去法が使えるかどうか」にかかっている。

[対策] センター試験の過去問題の会話文を3、4回繰り返しやっておきたい。なお、会話文の弱い生徒は、リスニングで戸惑うことが多い。よって、リスニング対策も兼ねているということを忘れてはならない。

第2問C

[正解率] 問1 98.3% 97.4% 82.8%

問2 92.2% 85.3% 55.2% (差)

問3 99.1% 95.7% 90.5%

[解説] 今年の語句整序はある中位層以上の者には簡単であった。ただ「意味を考えずにパズル的に解いている学生」にとってはそれなりに難問であったようだ。問2を間違った者の中には、The entertainer was happily raised with singing her arms up in the air. としたものが多い。「～しながら」を with + -ing とは言えないことを知らないことも一因だが、

raise + 人「人を育てる」も知らない可能性がある。そもそも sing one's arms では意味が通らないと思うが、「パズル的にやる」生徒は、そのようなことはお構いなしのようである。余談であるが、空所の位置が例年と異なるので、それで間違えてしまったという声をちらほら聞いた。

[対策] 語句整序は、「パズル的な解法」ではなく「この文が言いたいことは何か」を常に考えながら解くことが大切。模擬試験の問題は「パズル的な解法」で解決するものが多いから気をつける必要がある。高校1年生ぐらいから、過去問題100題ぐらいを3回ほど反復すれば効果が高い。

第3問A

[正解率] 問1 99.1% 95.7% 90.5%

問2 98.3% 92.2% 88.8%

[解説] 今年の問題は簡単であった。ともに言い換えが明確なので間違えることはなかった。問2の right as rain は、as right as rain と同じで、「(雨の多いイギリスでは雨が降るのが正常なように) 雨と同様に正常だ」から「健康だ」と転じたもの。right と rain が頭韻を踏んでいるのが面白い。as busy as a bee 「とても忙しい」、as cool as a cucumber 「とても冷静だ」なども同様である。

第3問B

[正解率] 問1 99.1% 94.0% 81.0%

問2 85.3% 66.4% 57.8% (差)

問3 98.3% 90.5% 66.4% (差)

[解説] おおむね出来はよいが、問2、問3で差がついている。問2は、本文が「制限付きの賛成」になっていることから、答えは④以外にはない。ただ、For example, by watching English TV programs for young kids, children can get used to the sounds of English. という文の watching... の意味上の主語が後続の主語の children であることが分かれば、①②はすぐに間違いだと分かる。実際には①②にした者が中位から下位層に多い。これはパラグラフ全体ではなく、部分だけ見ている（しかも読み間違えている）ことが原因であろう。

第3問C

[正解率] 問1 94.0% 75.0% 49.1% (差)
 問2 99.1% 93.1% 77.6% (差)
 問3 89.7% 80.2% 64.7% (差)

[解説] 例年通り、上位と下位の差が激しい。この問題は、①抽象から具象、② but などの前後の論理、③代名詞に注目、という3点から出題されており、中でも①が最大のポイントとなる。問1は空所の後に「アーモンドもピーナッツもプラス点とマイナス点がある」＝「アーモンドもピーナッツも同じようなものだ」という話。選択肢①は「違う」という方向性、②も「違う」という方向性、③は本文と無関係な選択肢、④は「同じ」という方向性。以上から④を選ぶのは難しくはないはずだが、抽象から具象などを意識していない者は①を選んでしまったようだ。このことは問2、問3に

も言える。

[対策] 各種市場に出回っている「センター用問題集、直前問題集」を見てみると、上のポイントが出題されおらず、「なんとなく内容から解けてしまう」ものが多い。とにかく、ふだんの英文解釈から上記のポイントを頭に置いて読むべきであろう。「形式だけは同じだが内容が伴っていない問題集」よりは、形式の異なる過去問題の方をやらせるようにしたい。

第4問A

[正解率] 問1 99.1% 93.1% 87.1%
 問2 100.0% 95.7% 75.0% (差)
 問3 96.6% 63.8% 57.8% (差)

[解説] 問3は該当箇所がばらついているためか出来は悪い。①は、第3段落の最初に「水分を抜いた後も少し大きさが変化する」とあるので不可。④は、第1段落に「乾燥には、自然乾燥と釜を使ったものの2通りがある」とあるので不可。③は、第4段落第1文の「室内に置かれていても、材木の水分量は季節によって変化する」という記述に反する。この選択肢③を選んでしまった人が多い。以上より②が正解。第3段落第1文に「乾燥させた後でも、周りの空気の湿度の変化に応じて大きさが微妙に変化する」と書いてあるが、「見事な言い換え」が施されているため難しかったようである。

[対策] 「比較」というと、「頻度の低い慣用表現を覚えさせる問題集」が相変わらず多いが、そのような特

第3問C 次の文章の に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Do you like eating “mixed nuts” while watching TV and movies at home? Since both almonds and peanuts can be found in the mixed nuts sold at grocery stores in Japan, you might assume that they are similar types of food. Indeed, . For instance, they are both nutritious as sources of minerals and vitamins. At the same time, however, some people can have allergic reactions to them. According to recent research, many children suffer from peanut and almond allergies....

- 問1 ① it may be difficult to find some similarities between them
 ② many consumers know about differences between them
 ③ there is a wide variety in each package of mixed nuts
 ④ they share some interesting characteristics with each other

殊なものをやる前に、図表を読み解くのに必要となる基本的な比較表現を徹底的にマスターさせたい。さらに、数学や地理や生物を選択していない文系の生徒には、図表を苦手とする者も意外と多く、そうした生徒には早い時期から過去問題をやるように指導しなければならない。

第4問B

[正解率]	問1	98.3%	88.8%	76.7% (差)
	問2	86.2%	81.9%	72.4%
	問3	92.2%	87.9%	73.3%

[解説] おおむね出来はよいが、下位層では25%前後の者が取りこぼしている。問1で①にした者はコンサートが8月18日であることを無視している。③にした者は「今年は1回だけ」という本文の記述を無視している。また誤答の中では④にした者が多いが、チラシの表題を無視している。英語力と言うよりも、注意力の差が出た問題と言えるかもしれない。

[対策] 短時間で必要な情報を素早く見つけるための訓練が必要であろう。TOEIC 関連の問題集も効果的である。とにかく様々なパターンに慣れておくことが重要である。

第5問

[正解率]	問1	95.7%	81.9%	75.9%
	問2	99.1%	92.2%	87.1%
	問3	98.3%	88.8%	68.1% (差)
	問4	96.6%	87.9%	77.6%
	問5	97.4%	87.1%	79.3%

[解説] 問3の①は、Yukiの発言には「国際博ではなくてホストファミリーとコンサートに行きたいと思った」とあるので不可。②は、「週末にホストファミリーとやることが多くて、それほど多くの旅行には行っていない」とあり、「一度もない」とは書いていないので不可。③は、「時には混んでいたが、待つ価値があった」とあるだけなので不可。以上から④を選ぶことになる。④は、「英語の勉強だけでなくカナダについてもっと知りたかった」とあるので合致。本文が仮定法

I wish が用いられていることが分からないと難しい。

これは昨年の第5問も同様に仮定法が使われていた。

[対策] 情報を的確に捉える訓練を、センターの過去問題(形式が少々異なっても大丈夫)でやることが得策。また日常でよく使われる表現は積極的に覚えたい。

第6問A

[正解率]	問1	71.6%	55.2%	52.6%
	問2	93.1%	80.2%	60.3% (差)
	問3	88.8%	76.7%	56.0% (差)
	問4	92.2%	65.5%	48.3% (差)
	問5	94.0%	85.3%	69.0% (差)

第6問B

[正解率]	問1	94.0%	80.2%	77.6%
	問2	94.0%	77.6%	75.0%
	問3	98.3%	88.8%	80.2%
	問4	98.3%	87.9%	75.9% (差)

[解説] 全体を読んで「何が言いたいのか」をつかみ、その方向性を考えて解けばよい問題である。従来の物語・エッセーが出題されている頃から、センターの長文は「全体のテーマ」を考えて解く問題であったが、3年前からこの傾向が明確になった。昔から、長文読解と言うと、「1つのパラグラフを読んだら問1を解きましょう」とか、「答えは第何パラグラフの第3文にあります」などの、「本来の読み方」に逆行するような問題集や指導が横行していた。よってセンター試験は、第3問の延長として、パラグラフ全体→文全体を捉えさせるための問題として、この第6問をリニューアルしたのである。よって、とにかく全体を読んで方向性をつかみ、設問は最後に一気に解く、という「正攻法」が大切である。

[対策] ふだんから「ダラダラと全訳する」のではなく、パラグラフごとに言いたいことをメモすることを習慣にさせたい。もちろん、「意味がはっきりしない箇所」は精読も有効であるが、全体を捉える訓練を優先したい。